

由へ双方とも小公を退收。退陣せんことを構う。新倉野の柴田稻  
 葉と火水小公とて戦ひ。浅井長政軍使のりて。河邊收束  
 べしと意を送りたる小より。探り小退りたるが柴田稻葉も退散せ  
 ず。退散探りしを退軍せり。浅井の両弟織田計四將引退  
 して戦損を幾何ぞと將檢する小。浅井朝倉小二百余騎織  
 田方小の二百余人常敵もこま小准下りたる。然る小本下藤吉  
 舟の今日款計一勇士群小秀へ捲らき。尋常ありを心  
 懸り日探野足先小のあたる。近くをこまて竊ひ視る。こま  
 當小敵を藏し。こま面態楚と視認らる。退陣してこの事。心  
 掛りたる。由へ間者せり。此を存する小日探野足先の軍小  
 中へ松坂甚内といふ者あり。實吾を推て告る。小を御安途

びくさきども。浩る勇士を謀く。礼軍中小戦没さる。いと憾む。足  
 傳小。人可望。深をも將佐小せん。と只願ふ。人せらる。

繪本豊臣勲功記四編卷之二終